

# バックナンバー目次一覧

購入ご希望の方は、

東京大学大学院総合文化研究科比較文学文化研究室

(〒153-8902 東京都目黒区駒場3-8-1)

東京大学教養学部8号館

☎・03-5454-6330、

FAX・03-5454-4325)まで、

お問い合わせ下さい。

## 第1号

「南に窓を」——金素雲の訳詩一篇

自伝に於ける「自己なるもの」についての一考察

鷗外のイブセン観の構造

『唐物語』第十話原拠再考

「情」の運命——『花柳春話』をめぐる——

疎外されし者たちの群像

——現代の寓話 Oublier Paleme —— (『忘却のパレルモ』)

カフカの動物存在の変容と詩的自我

表現主義演劇と小山内薫

## 第2号

ハムレットと眉輪王と

インドにおける天心

——『東洋の理想』『アジアの覚醒』再考——

二十年代の三木清

結ばれ、了解、異文化、鼠——R・D・レインの視線——

永遠の若さをもとめて——『山の音』を読む——

『平行』の翻案について

リルケに於ける始源遡行モチーフ

Une petite étude sur la philosophie

du langage de Merleau-Ponty

Ohnuki Tohru

## 第3号

「老いらくの恋」・東西の系譜(一)

序論——「老い」の比較文学

物語の受容——芥川の「再話」をめぐる——

明治日本と西洋音楽

——制度史からみた「美的受容」の成立——

反・望郷の歌——寺山修司「田園に死す」

アトミズムの東西(一)

——古代中国に原子論は存在したか——

ラッセルとベトナム戦争——倫理の核時代——

カルナの出生譚——訳注(上)

昔々 フォーイフォイ

Qu'est-ce que "l'exotisme"?

## 第4号

「老いらくの恋」

・東西の系譜(二)

有馬 良之

三浦 俊彦

牛村 圭

小沢 万記

瓜生 研二

Ohnuki Tohru

増田裕美子

松浦 俊輔

玉川 裕子

川原真由美

山口 恵三

三浦 俊彦

小倉 泰

崔 仁 勲

(李応寿 訳)

Ohnuki Tohru

増田裕美子

増田裕美子

俳人蕪村と詞

劉 岸 偉

イエイツ・三島・能

—— 演劇表現における「近代」と反「近代」—— 佐伯 順子

アトミズムの東西 (二)

—— 古代中国に原子論は存在したか —— 山口 恵三

カルナの出生譚—— 訳注 (下)

小 倉 泰

Chopin et le Regard de Donnet-Dieny

Shiina Ryosuke

Der Begriff des Körpers bei Béla Balázs —— Im Zusammenhang mit

Lukács' "Gedanken zu einer Ästhetik des Kinos" ——

Ozawa Kazunori

弔辞・瓜生研二さん追悼

小沢 万記

## 第5号

シェイクスピアと老い

プーシキンの『石の客人』—— 改心した騎士 ——

増田裕美子

ロンサールとオウディウス

—— 『転身物語』受容の一断面 ——

猪俣 賢司

本居宣長における言と意

—— 日本語の「脱自然性」を手がかりに ——

今野喜和人

事実の錯誤と法律の錯誤 (二)

—— 二つの大審院判例から脱構築論争へ ——

三浦 俊彦

父のない子と子のない父と

まなざしの変貌—— 白秋から恭次郎 ——

千葉 一幹

世阿弥の音楽概念に関する試論

—— 「調子」をめぐる ——

椎名 亮輔

ルカーチの映画理論 (一)

—— 「映画美学考」から『美的な物の固有性』へ —— 小澤 万記

【書評】三島憲一著『ニーチェ』(一九八七年)

山口 恵三

ロマン・ロラン『内面の旅路』試論

今橋 映子

Une Réflexion sur le mot "liberté"

Onuki Tōru

## 第6号

専門主義の野蛮性について (一)

—— 現代哲学に於ける「知」と技術との背反 —— 山口 恵三

風雅のパラドクスと芭蕉

—— 「枯野をかげぐる」ものの考察 ——

三浦 俊彦

【書評】廣松 渉著『新哲学入門』(一九八八年)

東 聡

言葉と映像研究第一回国際会議報告

「老いらくの恋」・東西の系譜 (三)

増田裕美子

兄妹婚伝承と《妹》の深層

菅原 浩

【書評】市川定夫『新公害原論』(一九八八年)

家田 貴子

## 第7号

谷崎潤一郎『芦刈』—— 複式夢幻能として ——

林 容 澤

古代の詩と世界の謎について

—— 万葉集巻17・13896の歌を中心に ——

菅原 浩

角とマント

【書評】村上陽一郎編『現代科学論の名著』(一九八九年)

増田裕美子

芭蕉発句考—— 「旅に病で」の句をめぐる ——

松田 伸子

Formation de l'épigramme en France:

Un aspect de l'art poétique français au XVI<sup>e</sup> siècle

猪俣 賢司

同人近況報告

第8号

ヘルダーリンの賛歌『あたかも——祝祭の日に……』

——詩人の使命をめぐる——

ナティエの音楽記号学をめぐる

シェリーと死と宇宙

——文学と「叡智」の伝統について——

黄遵憲における日本理解の序幕

北村透谷とコールリッジの詩に見られる

イニシエーション的構造

近代日本というマクベス

「壬申倭乱」の記録に現われた「天」の特性

——『懲懲録』と『太閤記』を中心に——

人魚について

恐怖小説としての『黒いクモ』

Psychological Dynamics of the Desert in Voss

第9号

オシップ・マンデリシュタムのゲート像

江戸時代の中国語研究——岡島冠山と荻生徂徠——

衣の裏の宝珠

——道元における『法華経』譬喩譚解釈——

詩人・堀口大學とジャン・コクトー詩

——コクトー・モチーフの展開——

メキシコの版画家ボサダと江戸の版画

高木 繁光	菅原 浩	田中 雅史	小谷野 敦	崔 官	菅原 克也	小澤 萬記	中村 和恵	高木 繁光	西原 大輔	君野 隆久	西川 正也
椎名 亮輔	張 洵	張 洵	張 洵	張 洵	張 洵	張 洵	張 洵	張 洵	張 洵	張 洵	張 洵

КОМПА В ЯПОНИИ

第10号

児童文学の育つ条件 メキシコの場合 ニナ・ユイ・デ・長谷川

宮沢賢治『春と修羅』瞥見

——コロイド空間の行方——

海、太陽への問いと諦め

——森鷗外の『妄想』を巡って——テレングト・アイトル(文特)

志賀直哉の「母親達」

日・韓近代小説に現れた青年像

——夏目漱石の『三四郎』と李光珠の『無情』を中心に——

『靈異記』における渡来人像と朝鮮観について

「東学」の近代化

ペリー提督のピクチュアレスク・トラベル

——ペリー提督『日本遠征記』に描かれた日本と中国——

サマセット・モームのシンガポール

ネルヴァル『シルヴィ』における色彩に関する一考察

明治三〇年代における立身出世論考

——『成功』を中心に——

明治期露西亜文学翻訳攷(二)『クサカ』

幻想文学論序説——現実と幻想との境界について

志賀直哉の文学環境

加藤 百合	松井 貴子	崔 妍	金光 林	李建 志	加納 香	西原 大輔	西川 正也	傅 澤 玲	加藤 百合	花方 寿行	松井 貴子
加藤 百合	松井 貴子	崔 妍	金光 林	李建 志	加納 香	西原 大輔	西川 正也	傅 澤 玲	加藤 百合	花方 寿行	松井 貴子

芭蕉発句試論——「池をめぐるて」——

西原 大輔

『今昔物語集』巻二十二・巻二十三の考察

李 市 峻

——評語に現れた編者像を求めて——

——『日本往生極楽記』『大日本国法華経験記』を中心として——

金 敬 姫

万葉集反歌小考——長歌との対応様相をめぐって——

エスニシティとマンダリン

——シンガポールにおける中国系住民の場合——

## 第12号

児童観史の中の方定換

前島 志保

日本留学と日本人教習——一九一〇年代を中心に——

傳 澤 玲

「死」とその周辺——実篤・漱石・直哉——

上代特殊仮名遣「コ」の甲乙二類辨

基礎日本語の思想

——戦時期の日本語簡易化の実態と思考——

『今昔物語集』巻二十四の考察

——出典との比較から見た編者像——

A Novel of Uchida Roan and its Colonialism:

Ambitions of Establishing a Settlement in Mexico

## 第13号

大正期のある對話精神

——浅川巧の日記公開を巡って——

No More Annotated Alice:

tentative de-construction pour et/ou contre Lewis Carroll

高桑 和巳

幻想文学論序説(Ⅱ)

——幻想的テクストについて——

「君死にたまふことなかれ」と、その後

——与謝野晶子と戦争——

「近しい人々の思い出に」

レヴィナスと他者の死への沈黙

La Vision de l'Autre:

les Japonais chez Pierre Loti et l'Enfant de Volupé

Japonisme in Dispute: Visual Discourse and Cultural Representation

in Late Nineteenth-Century French Art

——国民の肖像——魯迅の「車夫」と

## 第14号

——一九一八年から一九四八年まで——

国民の肖像——魯迅の「車夫」と

国木田独歩の「山林海浜の小民」

宮沢賢治とウォルター・スコット

——比較詩学へのノート——

東アジアにおける「進歩」の誕生

梁啓超と日本

——福沢諭吉の啓蒙思想との関連を中心に——

「自然主義的表象詩」の成立とエマソン受容

——「自然主義的表象詩」の成立とエマソン受容——

花方 寿行

松井 貴子

村上 靖彦

平石 典子

當間千代子

赤塚 若樹

大東 和重

杉原 正子

鄭 長 勲

馮 寶 華

水野 達朗

第15号

一九世紀の終わりに日本を訪れたあるメキシコ人の記録

ギジェルモ・クアルトゥチ著（宇佐川佳子訳）

遠藤周作『沈黙』に託されたもの

——「沈黙」のオーケストラ——

マイノリティとしてのろう文化

——聞こえないことをどう捉えるか——

佐野乾山事件とバーナード・リーチ

パウ・クレーの絵画とタイトルとの関係

反省の発生的構造——現象学的還元と分裂病における

同時的内省の起源としての非志向的意識について

フィンク、レヴィナス、長井真理、木村敏をめぐって——

日本文学の翻訳

——三島由紀夫『春の雪』の中国語訳について——

第16号

『今昔物語集』巻二十六・宿報譚の意義を巡って

写真における眼差しの問題——ウォーカー・エヴァンス

『アメリカン・フォトグラフィクス』を巡って——

詩と新メディア

——萩原恭次郎の「広告塔！」を中心にした一九二〇年代の

アヴァンギャルド論考——ウイリアム・O・ガードナー

芥川龍之介と西洋絵画——内容と形式を巡る葛藤——小嶋 千明

〈文化〉対〈文明〉——第一次世界大戦における

独仏知識人の言説戦争——

物語研究における「構造」の概念

——作者と読者のかかわり方——

主観性の現象学的場所論へ向けて

——レヴィナス『全体性と無限』とハイデガーの

『アンティグネー』読解——

第17号

植民地朝鮮文学の東京表象

——朴泰遠の『三日空き腹、春の月をめぐって——李 敬 恩

『今昔物語集』本朝世俗部の構成の問題

——巻二六以後——における仏法への傾斜に対する位置づけ——

読むことの規制

——田山花袋『蒲団』と作者をめぐる思考の磁場——大東 和重

物語と女性性

——『緋文字』と『ピラヴド』の相互テクスト性——川口 恵子

言語・資本・土地

——一九〇〇年前後日本における

『金色夜叉』の受容について——

ヤコブ・ベームにおける悪の思索

——形而上の悪と人間——

『花物語』と語られる〈少女〉

——少女小説試論（一）——

森鷗外『雁』と『虞初新志』の「大鉄椎伝」

【書評】アメリカ児童文学研究プロジェクト編

『アメリカの少女たち——少女小説を読む——』

朴 眞 秀

村上 靖彦

李 敬 恩

李 市 峻

大東 和重

川口 恵子

貞包 英之

中山みどり

信岡 朝子

林 淑 丹

児島 由理

【書評】松村一男著『神話学講義』

井上 征剛  
中西 恭子

第18号

技術批評を超えて

——島崎藤村『破戒』・表層と深層——

大東 和重

柄谷行人と西田幾多郎(一)

小田桐拓志

〈文化〉の落とし穴、あるいは文化を考察し記述することについて

ガーデナ 香子

ニーチェとマラルメ——ヴァーグナーと「大衆」

或いは「群衆」概念の問題——

児島 由理

『住吉物語』と『夜の寝覚』

——設定の類似と新しい主人公像の創造——

辛 在 仁

弟の王権

——『彦火々出見尊<sup>ひこほでみのみこと</sup>絵巻』製作背景論おぼえがき——

永井久美子

写真読解試論——「記録と記憶」ウォーカー・エヴァンズの

日高(江口) 優

一枚の写真を手掛かりに——

——「And the Soul Shall Dance」の短編と戯曲—— 前島 志保

照井氏所蔵『エマーソン論文集 上巻』の

「宮澤トシ肉筆メモ」

水野 達朗

何が我々を永遠平和へと導くのか——カント『永遠平和に向けて』

における移行の問題——

安井 正寛

セインズベリー日本芸術研究所蔵

バーナード・リーチ旧蔵書コレクションについて 鈴木 禎宏

第19号

大江健三郎における中国

——1960年中国旅行をめぐって——

王 新 新

柄谷行人と西田幾多郎(二)

小田桐拓志

【書評】奥波一秀『クナッパースブッシュ——音楽と政治——』

(みすず書房、2001年)

児島 由理

『松浦宮物語』の作品世界と話型

朴 南 圭

立原道造と内面への眼差し——「新しい言葉」を探して——

朴 洪 仁

安部公房の『他人の顔』とカルヴィーノの『冬の夜ひとりの旅人』

が』における「仮面」の役割について

マーガレット・キー

「心相」考——賢治文語詩の一断面——

水野 達朗

Phantasy and body, or seeing and touching:

Visual arts practices in Fanonian spaces

ガーデナ 香子

「死んだ声」に抗して——『ゴドーを待ちながら』試論——

川島 健